目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

三区間交流事業

実　施　報　告　書

（令和８年７月２１日～２４日）



令和８年１１月

目黒区文化・交流課

【目　　次】

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ　三区間交流事業（東京都目黒区）【７月２１日～２４日】
　１　目　的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　２　主催者　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　３　日　程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　４　各区の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　５　概　要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
　６　報告会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　７　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
　８　選手感想文（目黒区選手１６名）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

Ⅰ　は じ め に

目黒区と北京市東城区との交流は、昭和５４年に東京都が北京市と友好都市の提携を結んだことから、２年後の昭和５６年に当時の目黒区長が北京市を訪問、その折、当時の北京市崇文区（現在の東城区）を訪問したことがきっかけで、崇文区と目黒区との交流が始まりました。

その後、平成３年に崇文区と目黒区は友好都市協定を締結したことにより本格的な交流が始まり、相互に友好交流団を派遣するなど交流を推進してきました。また、平成２２年に崇文区と隣接する東城区が合併したことに伴い、平成２３年に東城区と目黒区は改めて友好都市協定を締結し、この間も目黒区議会の訪中、両区の児童・生徒による書画作品展の開催や小学生による年賀状交換など様々な交流を続けてきました。

一方、目黒区とソウル特別市中浪区との交流は、崇文区と中浪区が友好都市関係にあることから、平成２２年に中浪区から目黒区に対して友好交流要望があり、その年に相互に代表団が訪問するなど交流が始まりました。平成２５年には、「友好増進及び交流協力覚書」に調印し、両区の小学生による賀状の交換を開始したほか、平成２６年には、目黒区スポーツ交流団が中浪区を訪問してバレーボールの交流試合等を行うなど、交流を推進してきました。

東城区と中浪区との交流推進に向けて、平成２７年７月には東城区長及び人民代表大会常務委員会主任から招聘を受け、区長、議長をはじめとした目黒区代表団が文化・芸術、教育、スポーツなどの分野で様々な交流の発展を目指していくため、東城区を訪問しました。その際、目黒区長から当時の張 家明（ジャン ジャミン）東城区長に対して、中浪区も含めた三区間での青少年同士の交流ができないかと提案を行い、東城区長から前向きな回答を得ました。

その後、平成２８年７月に東城区で行われた三区による実務者協議等を経て、翌平成２９年７月に東城区において、目黒区・東城区・中浪区の三区による第１回の三区間交流事業が実施されました。青少年の交流種目としてバスケットボールが採用され、三区の中学生が試合を行いました。続いて、平成３０年には目黒区を開催区として、令和元年には中浪区を開催区として、バスケットボールを種目とするスポーツ交流や文化交流を行いました。

令和２年からは新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、対面交流を中止し、オンラインにて動画交換やライブ配信での交流を続けてきました。そして令和６年度には、中浪区にて再び目黒区・東城区・中浪区の三区の中学生が集い、コロナ禍以降初めての対面開催を果たしました。スポーツ交流種目にはバドミントンが採用され、初めて国別対抗ではなく三区混合チームによる交流が行われました。令和７年度は、東城区にて引き続きバドミントンを種目とし、スポーツ交流及び文化交流を行いました。

令和８年度は、目黒区が開催地としてバドミントン交流を行うことが決定され、令和８年３月には三区担当者によるオンライン会議にて協議を行いました。

こうした経過を踏まえ、本年７月２１日から２４日にかけて、目黒区において三区間交流事業を実施しました。

本報告書は、この事業実施結果をとりまとめたものです。

Ⅱ　三区間交流事業（東京都目黒区）【７月２１日～２４日】

１　目　的

友好都市である中国北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区との継続した友好交流を推進するため、次代を担う子どもたちによるスポーツ交流及び文化交流事業を行う。

２　主催者

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

※東城区は諸般の事情により参加がかなわず、今年度は目黒区及び中浪区の二区で実施

３　日　程

令和８年７月２１日（火）から７月２４日（金）までの４日間

月日	時間帯	内　容	場　所
７月２１日 （火）	午後	・中浪区日本到着 ・選手顔合わせ、合同練習【選手団】 ・区長表敬訪問【代表団】 ・歓迎夕食会	成田空港 中央体育館 目黒区総合庁舎 八芳園
７月２２日 （水）	午前	・バドミントン大会開会式 ・交流試合（交流戦予選）	中央体育館
	午後	・交流試合（個人戦予選） ・三区代表者会談【代表団】	中央体育館 目黒区総合庁舎
７月２３日 （木）	午前	・交流試合（交流戦順位決定戦） ・都内視察【代表団】	中央体育館 東京スカイツリー
	午後	・交流試合（個人戦順位決定戦） ・バドミントン大会閉会式 ・区内視察【代表団】	中央体育館 めぐろ区民キャンパス
７月２４日 （金）	午前	・都内施設見学	日本科学未来館
	午後	・都内施設見学【代表団】 ・文化交流体験【選手団】 ・歓送夕食会	うみほたる 目黒区総合庁舎 八芳園

※中浪区は７月２５日（土）に帰国

＜参考＞　経費負担

バドミントン大会運営委託、合同夕食会、横断幕作成費用　等　１５，２０４千円余

４　各区の構成

（１） 目黒区

参加選手　　目黒区内在住中学２年生１６名（男子８名、女子８名）

学　校　名	氏　名	性別
目黒区立目黒中央中学校	大西　こころ	男
目黒区立目黒中央中学校	吉井　琉樹	男
目黒区立大鳥中学校	小林　寅之助	男
目黒区立目黒西中学校	桑原　司	男
目黒区立目黒西中学校	陸　奕昂	男
東京都立桜修館中等教育学校	板澤　明広	男
東京都立桜修館中等教育学校	寺嶋　透	男
私立青山学院中等部	大歳　秀彦	男
目黒区立東山中学校	日下　優	女
目黒区立東山中学校	原　杏南	女
目黒区立東山中学校	山本　瑞奈	女
目黒区立目黒中央中学校	阿部　奏音	女
目黒区立目黒中央中学校	齊木　あずさ	女
目黒区立目黒中央中学校	森山　結良	女
目黒区立目黒南中学校	加藤　沙良	女
目黒区立目黒南中学校	永岩　怜	女

指導スタッフ

野村　幸一　　目黒区バドミントン協会理事長
花輪　美保　　目黒区バドミントン協会常任理事
大和田　徳子　目黒区バドミントン協会指導員

事務局

濵下　正樹　　文化・スポーツ部長
西村　敏弘　　文化・交流課長
末木　顕子　　スポーツ振興課長

（２）中浪区

代表団（６名）

中浪区副区庁長　他５名

選手団（２５名）

引率者９名、参加選手１６名

５　概　要

（１）　第１日目（令和８年７月２１日）

ア　選手顔合わせ、合同練習

①　日　時　　令和８年７月２１日（火）午後４時から５時まで

②　場　所　　中央体育館

中浪区選手団の到着後、翌日から開催されるバドミントン大会に向けて、目黒区・中浪区選手による顔合わせ及び合同練習を実施しました。目黒区選手は体育館入口で日本と韓国の手旗を持って中浪区選手を歓迎し、交流事業がスタートしました。

選手たちは、大会期間中のルールやスケジュールを確認後、日韓の男女各２名ずつ計８名で構成された４チームに分かれ、自己紹介を行いました。言語の違いがある中でも工夫しながらチームメンバーやダブルスのペアを確認する姿が見られました。

合同練習では、基礎練習やダブルス練習を通じて互いのプレーの特徴を確認し、試合での連携に向けた感覚を共有しました。限られた時間ではありましたが、選手同士は交流を重ねながら互いへの理解を深めることができました。





イ　中浪区代表団　区長表敬訪問

①　日　時　　令和８年７月２１日（火）午後３時３０分から４時まで

②　場　所　　目黒区総合庁舎（特別会議室）

③　参加者　　【目黒区】区長、副区長、教育長、目黒区議会議長　ほか５名

【中浪区】鄭 相澤（チョン・サンテク）中浪区副区庁長　ほか５名

目黒区総合庁舎南口エントランスに大勢の区職員や目黒区議会議員が歓迎する中、ソウル特別市中浪区鄭 相澤（チョン・サンテク）副区庁長をはじめとする６名の中浪区代表団が到着しました。





懇談では、はじめに目黒区長から歓迎の意を伝えたほか、これまでの三区間交流事業の実績についても触れ、「三区の次代を担う青少年が文化の違い・言葉の違いを超えて交流をするスポーツ・文化交流は大変有意義であり、今後も引き続き三区による活発な交流を行っていきたいと考えます。」と伝えました。これに対し、中浪区の鄭 相澤（チョン・サンテク）副区庁長からも、「青少年の交流を通して、現在そして未来までその交流を深めることは意義深いことであり、これからも三区が持続的にスポーツ・文化・人を通じた交流を続けられたらと思っています。」と応じました。その後、記念品の交換や写真撮影を行い、和やかな雰囲気の中で事業初日がスタートしました。





ウ　歓迎夕食会（目黒区長主催）

①　日　時　　令和８年７月２１日（火）午後６時から７時４５分まで

②　場　所　　八芳園　「和紙」

合同練習終了後、交流事業初日の締めくくりとして歓迎夕食会を開催しました。会場には中浪区・目黒区の参加選手及び関係者が一堂に会し、翌日からの大会に向けて親睦を深める機会となりました。選手は翌日からのバドミントン大会でともに活動する日韓混合チームごとに着席し、交流を行いました。

夕食会では、選手たちが簡単な英語やジェスチャー、翻訳アプリ等を活用しながら積極的にコミュニケーションを図る姿が見られました。合同練習での交流を経て選手同士の距離も徐々に縮まり、翌日からの大会への期待を高めながら、和気あいあいとした雰囲気の中で交流事業初日を終えることができました。





（２）第２日目（令和８年７月２２日）

ア　バドミントン大会開会式

①　日　時　　令和８年７月２２日（水）午前１０時から１０時４５分まで

②　場　所　　中央体育館

バドミントン大会の開会式では、中浪区及び目黒区の代表団・選手団をはじめ、多くの関係者が参加し、２日間にわたる交流大会の開幕を迎えました。開会にあたり、目黒区長、中浪区副区庁長、目黒区代表選手及び中浪区代表選手が挨拶を行いました。

挨拶では、スポーツや文化交流を通じて国際理解や友好を深める本事業の意義が語られ、選手たちに対しては、全力で競技に取り組みながら互いを尊重し、交流を深めてほしいとの激励の言葉が送られました。また、代表選手からは、大会開催に尽力した関係者への感謝とともに、バドミントンを通じて親睦を図り、心に残る大会にしたいとの抱負が述べられました。選手たちは真剣な表情で挨拶に耳を傾け、大会への期待を高めながら開会式に臨んでいました。



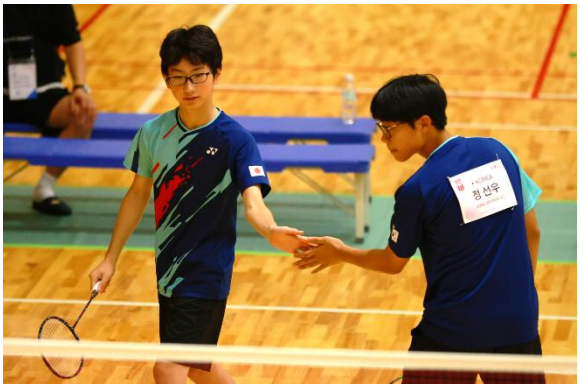


イ　交流試合（交流戦・個人戦予選）

①　日　時　　令和８年７月２２日（水）午前１１時から午後０時３０分まで、
午後１時３０分から５時まで

②　場　所　　中央体育館

開会式終了後、交流戦及び個人戦予選を実施しました。交流戦では、事前に編成された日韓ペアによるダブルス戦を行いました。選手たちは国や言語の違いを越えて協力しながら試合に臨み、プレー中には「ナイス！」や「ファイティン！」などの声掛けやハイタッチを交わす姿も見られました。個人戦予選では、選手が事前に選択したシングルス又はダブルスの種目ごとに、日韓それぞれの選手が対戦しました。試合では各選手が日頃の練習の成果を発揮しようと真剣にプレーし、白熱したラリーが数多く繰り広げられました。




ウ　三区代表者会談

①　日　時　　令和８年７月２２日（水）午後２時から４時まで

②　場　所　　目黒区総合庁舎（特別会議室）

③　参加者　　【目黒区】区長、副区長、教育長　ほか３名

【東城区】蔡 約翰（サイ・ヤクカン）東城区外事弁公室副主任　ほか２名

【中浪区】鄭 相澤（チョン・サンテク）中浪区副区庁長　ほか５名

目黒区総合庁舎特別会議室において三区代表者会談を開催しました。東城区とはオンラインで接続し、三区が１年ぶりに顔を合わせる機会となりました。

今年度でバドミントン交流が３年目を迎え、開催国が中浪区、東城区、目黒区と一巡することから、これまでの成果を踏まえた次年度以降の事業のあり方について、意見交換が行われました。協議の中では、青少年交流の重要性や、これまで築いてきた三区の友好関係を今後も発展させていくことを確認し、三区間交流事業を継続して実施する方針で一致しました。あわせて、交流形式及び開催順は従来どおり維持することとし、次期サイクルの競技種目については「卓球」を採用することで合意しました。




（３）第３日目（令和８年７月２３日）

ア　交流試合（交流戦・個人戦順位決定戦）

①　日　時　　令和８年７月２３日（木）午前１０時から午後０時３０分まで、
午後１時３０分から２時４５分まで

②　場　所　　中央体育館

大会２日目は、交流戦及び個人戦の順位決定戦を実施しました。試合開始前には、トヨタモビリティ東京バドミントン部の選手によるデモンストレーションが行われ、参加選手たちはトップレベルの迫力あるプレーを間近で見学しました。また、実際に選手と簡単な打ち合いを行う機会も設けられ、参加選手たちにとって大きな刺激となった様子でした。





交流戦では、日韓混合チームによるダブルス戦が引き続き行われ、選手たちはこれまでの練習や試合を通じて培った連携を発揮しました。コート内ではペア同士が声を掛け合う場面も多く見られ、互いを支え合う姿が印象的でした。個人戦順位決定戦では、シングルス及びダブルスそれぞれで熱戦が繰り広げられ、選手たちは最後まで諦めることなく全力を尽くしました。２日間を通じて、競技力を競い合うだけでなく、互いを尊重し協力しながら交流することの大切さを実感する大会となりました。





イ　中浪区代表団　都内視察

①　　日　時　　令和８年７月２３日（木）午前１０時から午後１時まで

②　　場　所　　東京スカイツリー、東京ソラマチほか

東京スカイツリーは墨田区にある高さ６３４ｍを誇る電波塔であり、国内外から多くの観光客が訪れる東京の観光名所の１つです。地上３５０ｍの「天望デッキ」と地上４５０ｍの「天望回廊」があり、東京の街並みはもちろん、天気の良い日には富士山を一望することもできます。また、足元には商業施設「東京ソラマチ」や「すみだ水族館」があり、多彩な楽しみ方が堪能できる施設です。

視察では、富士山の位置を確認するなど、熱心に大パノラマを楽しみました。

昼食は東京スカイツリー近くのレストランで深川飯に舌鼓を打ちながら、それぞれの故郷の話などに花を咲かせました。







ウ　バドミントン大会閉会式

①　　日　時　　令和８年７月２３日（木）午後３時から４時まで

②　　場　所　　中央体育館

２日間にわたるバドミントン大会の締めくくりとして閉会式を実施しました。閉会式では、交流戦及び個人戦の結果発表のほか、各区のＭＶＰ表彰が行われました。個人戦では女子ダブルスに出場した目黒区の原さん・森山さんペアが優勝を果たしました。また、目黒区のＭＶＰには大歳さん、日下さんが選出され、壇上では戸惑いながらも嬉しそうな表情で感想を述べていました。表彰では、各区の代表者から全選手にメダルが授与されると

ともに、チーム順位に応じた賞品が贈られました。

代表選手によるスピーチでは、バドミントンを通じて言葉や文化の違いを越えた交流を深めることができた喜びや、両区の選手がともに競技し、応援し合いながら過ごした時間がかけがえのない思い出になったことが語られました。また、目黒区長及び中浪区副区庁長から選手たちへ労いと交流事業への感謝の言葉が送られました。

会場は温かな雰囲気に包まれ、選手たちは２日間の交流を通じて築いた絆や思い出を胸に、大会を締めくくりました。





エ　中浪区代表団　区内視察

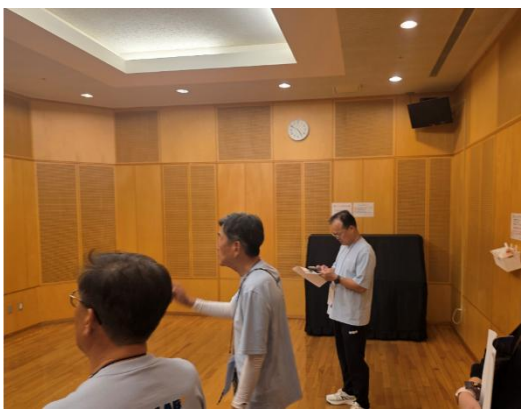
①　　日　時　　令和８年７月２３日（木）午後４時３０分から５時１５分まで

②　　場　所　　めぐろ区民キャンパス

目黒区の芸術文化活動の拠点である「めぐろパーシモンホール」は、大ホールと小ホールを備え、クラシック音楽や演劇、講演会など幅広いイベントに対応できる施設です。また、優れた音響性能と充実した設備を有していることも特徴です。

視察では、同ホールがめぐろ区民キャンパス内に位置し、図書館や体育館と近接することで、文化・学習・交流の複合拠点として活用されている状況について説明しました。これに対し、代表団からは施設運営や利用促進に向けた取組に高い関心が寄せられ、活発な意見交換を行いました。





（４）第４日目（令和８年７月２４日）

ア　都内施設見学

①　　日　時　　令和８年７月２４日（金）午前１０時から午後０時３０分まで

②　　場　所　　日本科学未来館

交流事業４日目は、日本科学未来館を訪問しました。館内では、ロボットや宇宙、地球環境、情報技術などに関する様々な展示を見学し、最先端の科学技術について学びました。参加選手たちは興味深く展示に見入りながら、体験型展示にも積極的に参加していました。また、ロボットによるダンスの実演を一緒に見学したり、館内で実施されていたクイズ形式のミッションにチームで協力しながら取り組んだりする姿も見られました。スポーツ交流とは異なる環境の中で親交を深めるとともに、日本の科学技術や未来社会に対する理解を広げる機会となりました。





イ　文化交流体験（茶道体験、折り紙体験）

①　　日　時　　令和８年７月２４日（金）午後２時５０分から５時まで

②　　場　所　　目黒区総合庁舎（はぎの間、しいの間、しじゅうからの間）

都内施設見学終了後、目黒区総合庁舎内の和室において茶道体験と折り紙体験の二種類の文化交流体験を実施しました。

茶道体験では、目黒区華道茶道連盟の講師から茶道の作法やおもてなしの心について説明を受けた後、抹茶やお茶菓子をいただきながら日本の伝統文化に親しみました。参加選手たちは慣れない正座に苦戦する様子も見られましたが、興味深く体験に参加していました。





また、折り紙体験では、目黒学園カルチャースクール講師の指導のもと作品づくりに取り組みました。選手たちは互いに教え合いながら作業を進め、完成した作品を見せ合う姿も見られました。日本の伝統文化に直接触れ、参加選手たちにとって印象深い体験となりました。





エ　歓送夕食会（目黒区長、目黒区議会議長共催）

①　　日　時　　令和８年７月２４日（金）午後６時から８時まで

②　　場　所　　八芳園　「波光」

交流事業最後の全体行事として、歓送夕食会を開催しました。会場には中浪区・目黒区の参加選手及び関係者が集い、４日間を振り返りながら和やかな時間を過ごしました。

夕食会では、日韓の代表選手によるお土産交換が行われました。代表選手たちは互いに記念品を手渡した後、しっかりと握手を交わし、会場からは大きな拍手が送られました。選手たちはチームの枠を越えて活発に交流し、会場のあちこちでは思い出を残そうと写真撮影を行う姿が見られました。また、交流事業初日からバドミントン大会閉会式までのダイジェスト動画が上映され、選手たちはリラックスした雰囲気の中で映像を眺めながら、４日間の思い出に浸っていました。閉会が近づくにつれ名残惜しそうな様子も見られ、この交流事業を通じて育まれた友情の深さを実感する歓送夕食会となりました。





６　報告会

①　　日　時　　令和８年１０月２日（金）午後６時３０分から７時３０分まで

②　　場　所　　目黒区総合庁舎（大会議室）

本事業の集大成として、目黒区参加選手及び関係者による報告会を開催しました。報告会では、令和６年度から３年間にわたり実施されたバドミントン交流事業への協力に感謝の意を表し、目黒区長から目黒区バドミントン協会へ感謝状を贈呈しました。また、交流事業の様子をまとめたスライドショーを上映し、参加者は４日間の思い出を懐かしく振り返りました。

会の中で発表された選手一人ひとりの感想からは、中浪区の選手との交流に加え、区内の他校の選手との交流も貴重な経験となったことや、バドミントンを通じて勝敗だけでなく、相手を尊重することや交流の大切さを学んだことなどが語られました。また、コーチからは、４日間を通じて得た経験や学びを今後の学校生活や日々の生活に活かしてほしいとの言葉が送られました。

本事業がスポーツ交流にとどまらず、国際理解を深める貴重な機会となったことを改めて確認するとともに、交流事業の成果を振り返る有意義な報告会となりました。



７　ま と め

本年で８回目となる日中韓三区間交流事業は、スポーツ及び文化交流を通じて青少年の国際理解を深めるとともに、三区の友好関係の発展を目的として実施しました。本年度は平成３０年度以来となる目黒区での対面開催となりました。中国北京市東城区については諸般の事情により来日がかなわず、中浪区及び目黒区の二区による実施となりましたが、東城区も三区代表者会談にはオンラインで参加し、交流事業の継続と友好関係のさらなる発展について協議しました。

スポーツ交流では、日韓混合チームによる交流戦や個人戦を実施しました。選手たちは合同練習や大会を通じて互いへの理解を深め、言葉や文化の違いを越えて親睦を育みました。互いを尊重しながら協力してプレーする姿や、健闘を称え合う姿が数多く見られ、スポーツを通じた相互理解の意義を実感する場となりました。また、文化交流体験では、都内施設見学や茶道・折り紙体験を通じて、日本文化や最先端の科学技術に触れることができました。中浪区の選手にとっては日本への理解を深める機会となったほか、目黒区の選手にとっても、自国の文化や伝統の魅力を改めて見つめ直す機会となりました。

参加選手からは、中浪区の選手との交流を通じて視野が広がったことや、言葉や文化の違いを越えて互いに理解し合えたことが大きな学びとなったことなどの感想が多く聞かれました。４日間を通じて築かれた友情は、参加した選手たちにとってかけがえのない財産になったものと考えます。今回の交流で得た経験や学びが今後の学校生活や将来の糧となり、次代を担う青少年の成長につながることを期待します。

令和６年度の中浪区開催から始まったバドミントン交流は、令和７年度の東城区開催、そして本年度の目黒区開催をもって３年間のサイクルを終えました。今回行われた三区代表者会談により、次年度以降も引き続き交流事業を実施すること、競技種目は卓球とすること、来年度は中浪区を開催地として交流事業を実施すること、などが決定されています。

今後も、競技種目の変更に関わらず、青少年がスポーツや文化活動を通じて国際交流の意義を実感し、多様な文化や価値観に触れる機会を確保できるよう、三区で連携しながら事業の充実に努めてまいります。

８　選手感想文

三区間交流事業　目黒区選手団　選手１６名

目黒区立目黒中央中学校２年　大西　こころ

今回の三区間交流でとても貴重な経験をすることができました。普段と違った形でバドミントンができることにワクワクしていました。しかし、韓国の選手たちとコミュニケーションを取ることができるのかという不安もありました。

１日目は、チームごとに自己紹介をしたり、ペアになって練習をしたりしました。その後の歓迎夕食会では、韓国の選手たちと楽しく話をすることができました。英語や翻訳のアプリを使ったり、ジェスチャーをしたりして、コミュニケーションを取ることができました。

２日目は、チーム戦と個人戦の予選をしました。チーム戦では、韓国の選手とペアを組んでダブルスの試合をしました。自分のペアはとても強く、足手纏いにならないか不安でした。しかし、試合中に「ナイス！」「ファイティン！」などと声をかけてくれたり、アドバイスをくれたりして、不安な気持ちは吹き飛びました。

３日目は、２日目と同じく試合をしました。試合中に自分からも声かけをすることができて、２日目よりも仲を深めることができたと思います。結果は悔しかったけど、それ以上に普段経験することができない異国籍の選手と試合ができて、とても心に残る時間となりました。

４日目は、科学館へ行った後、文化交流として折り紙や茶道をしました。韓国の選手たちとたくさんコミュニケーションをとることができました。最後の歓送夕食会では、みんなでたくさん話したり、写真を撮ったりして、終わりたくない時間が過ぎていきました。４日間の交流はあっという間でした。いつかまた、今回のメンバー全員で会えたら嬉しいです。

三区間交流で貴重な経験をすることができて、心から良かったと思います。交流の思い出は一生の宝物です。学んだことをこれからの学校生活や将来に活かしていきたいと思います。このような機会を用意してくださり、本当にありがとうございました。

目黒区立目黒中央中学校２年　吉井　琉樹

区間交流に参加して

今回、区間交流に参加して、バドミントンだけではなく、他国の生徒との交流もできて、とても良い経験になりました。

バドミントンでは、普段とは違う相手や、他国の生徒とダブルスを組んで試合をしました。最初は言葉が通じるか心配でしたが、「ナイス！」「ありがとう」などの簡単な言葉やジェスチャーで気持ちを伝えることができました。試合をしているうちに自然と笑顔が増え、お互いに協力しながらプレーできたことがうれしかったです。

言葉が通じなくても、スポーツを通して仲良くなれることを知りました。

文化交流や観光、お食事会では、日本との違いや共通していることをたくさん見つけることができました。食べ物や学校生活の話をしたり、お互いの文化について教え合ったりして、とても楽しい時間でした。

自分から話しかけることは少し緊張しましたが、勇気を出して話しかけると笑顔で答えてくれた

ので、とてもうれしかったです。

今回の交流を通して、言葉が違っても相手を思いやる気持ちや、自分から行動することの大切さを学びました。また、もっと英語を勉強して、次に外国の人と会う機会があれば、もっとたくさん話せるようになりたいと思いました。

この経験をこれからの学校生活や部活動でも生かし、相手の気持ちを考えて行動できる人になりたいです。区間交流で学んだことは、これからも大切にしていきたいと思います。

目黒区立大鳥中学校２年　小林　寅之助

僕は、四日間の交流会を通して主に２つ感じたことがあります。

一つ目は、韓国の子と打ち合いをしている時でした。基礎打ち中、次に何を練習しようかと相手に質問しようとしていたのですが、うまくジェスチャーをすることができず結果、翻訳機や通訳の方を頼ることになりました。今までほとんど海外の人と関わったことのない僕は、言語が違う人同士でのコミュニケーションはとても難しいことだと感じました。

二つ目は、韓国の子との試合の最中です。実際に打ち合うまでは、僕や周りの子と同じくらいのレベルなのかと思っていたのですが、いざ試合になると、コントロールがよかったり、フットワークが速かったりと、僕が勝てる相手ではないと感じました。ダブルスでは、ペアと「ファイト」という声掛けが通じて、楽しく試合をすることが出来ました。

僕は、自分に足りていないことを沢山見つけることができ、それを意識して練習や部活に励もうと思いました。食事や文化体験の時はお互いに言葉を教え合ったり、翻訳機を使って質問をし合ったりました。韓国の子たちは、自分から話しかけてくれたのでとてもコミュニケーションが取りやすかったです。最後にはすてきなプレゼントを頂き、とてもうれしかったです。交流会のサポートをしてくださった沢山の方々にとても感謝しています。僕は今回の交流会に参加して、コミュニケーションの取り方や、バドミントンについての新たな知識を学びました。これからも学んだことを忘れないように意識して練習をしていこうと思います。また、今回学んだコミュニケーションは海外の方と触れ合う機会があれば、活用していきたいです。

目黒区立目黒西中学校２年　桑原　司

国境を越えた友情

僕は今回のバドミントン交流会で、韓国の人達と共に成長し、そしてなにより友情をはぐくめたと思います。

初日、韓国の人と会ったとき「たった三日間で本当に仲良くなれるだろうか。」「言語も違うのに…」などの不安の感情が日本、韓国両方であったと思います。しかしそんなドギマギとした感情も、その日の夕食会でインスタグラムを交換したり、他愛ないことを話しながら共にご飯を食べる。そんなことをしているうちにいつの間にか消えていました。

二日目の韓国人と日本人でダブルスを組み交流をするバドミントン大会の団体戦では僕がずっと足を引っ張ってしまっていたと思います。ミスが多くよく失点する、そんなダメダメだった僕を、片言だけど日本語で「ドンマイ！」「大丈夫！」など決して責めないで、次につなげてくれるよう

な言葉をかけてくれるのがすごく嬉しく、おそらく一生忘れない良い思い出となりました。結果は最下位でしたが、一緒に戦ったチームメイトとより一層、絆が深まったと思いました。

三日目では科学未来館や文化交流など楽しい時間を過ごしているうちに、いつの間にか最後のプログラムの夕食会となってしまいました。

二回目の夕食会では、全員最初の日より打ち解けていました。最初の日は自分と同じテーブルの人と話す程度でしたが、この日はほかのテーブルの人とも話しに行くどころか、食事が終わった人から集まり、各々が好きなように新たにできた友達と交流していました。その時に男子全員で撮った集合写真は、交流会に参加した男子全員の一生残る宝物となったと思います。

バドミントン交流会で出会った人達との出会いは、これからの人生にずっと残る宝物です。この出会いに感謝して、学んだことを日々の生活やこれからの未来へ活かしていきたいと思いました。

目黒区立目黒西中学校２年　陸　奕昂

スポーツは無国境だ

今回、目黒区で開催した「日中韓三区間バドミントン交流試合」に参加するによって、試合が楽しいし、違う国の生徒たちとのコミュニケーションもできて、非常に貴重な経験を得たと思います。

言語が通じないので、コミュニケーションを取ることが難しいだろうと思いました。ただし、バドミントンという共通のスポーツを通して、翻訳アプリや手振りで会話をし始め、笑顔で交流することができたことは、本当、びっくりしました。バドミントン試合の話、好きな食べものなど様々な会話ができて、とても楽しかったです。結局、楽しむ気持ちや勝負への熱い思いは変わらないと実感しました。

この試合は単なる競技だけではなく、友情を育む機会もある。これからも、スポーツをきっかけに、他国の人との交流を大切にしていきたいです。

最後、学校が私にこの機会を与えてくれたことに感謝します。この大会に参加できることをとても嬉しいと思います。また、大会が円満に完了したのは、すべての先生方とボランティア、または参加したすべての生徒のおかげです。本当に、最高の思い出を作りました。

東京都立桜修館中等教育学校２年　板澤　明広

私は日中韓三区青少年スポーツ大会交流を通して、日本と韓国の共通点や相違点を見つけた。

共通点は目上の人を敬う姿勢だ。閉会式の韓国の選手のスピーチで、最初にコーチへのお礼の言葉を話していた。私はそのコーチへの敬意の念にとても感動した。日本にも目上の人を敬う文化があるため、参考にしたい。

相違点は、プレースタイルだ。韓国チームと対戦した際、ただ繋ぎ合うような、まだお互いを探っている場面でも、タイミングを変えて、玉の下に速く入り、強打を打ってきた。日本チームも、攻めるプレーをする選手は多いが、それ以上に韓国選手は押してくる。普段と違うタイプの相手と試合ができて、良い経験になり、とても楽しむことができた。また、韓国選手とダブルスを組む際、テンポが違うので、連携して動くのが難しかったが、プレーを続けるうちに、偶然、動きが噛み合い、気持ち良いプレーができた。そこからは、お互いに連携が取れるようになった。

試合にも勝てるようになり、普段からペアを組んでいるような感覚になった。

私は今回の事業を通して、文化の異なる人とコミュニケーションを取り、一緒に何かをする楽しさを知ることができた。最初は言葉が通じない相手で身構えてしまったが、対戦し交流をする間に相手も自分達と同じ中学生だとわかった。思いや考えを伝えるのは難しく、工夫しなければならない。しかし、気持ちが伝わったときには、一緒に楽しむことができ、国や言語の壁を超えた繋がりを感じる事ができた。私はこの経験から、文化の異なる人と会話をし、交流した際に、相手と繋がったと感じる感覚を多くの人に味わってほしいと思った。また同じような機会があった際には、躊躇してしまっている人にも声をかけ、みんなで交流を深めたい。

東京都立桜修館中等教育学校２年　寺嶋　透

今回の日韓交流を通じて、国や言葉、文化の壁があったとしても、スポーツで人と繋がり合うことの素晴らしさを改めて実感した。初めに韓国の選手たちと顔を合わせた時は、言葉の違いもあるし、どう話を切り出せばいいのか分からず、まだ「他人」というような感覚があった。ただ、一緒に競技を楽しんだり、食事をしたりと、ともに時間を過ごしていく中で、いつの間にか昔からの親友のように接していた。僕が特に印象に残ったのは、言葉の壁があったとしても、プレーや表情を通じて気持ちを共有できたことである。これを特に感じた場面が一つだけあるため、紹介させていただきたい。３位決定戦の後の事だった。足を痛めていた自分は、試合が終わっても痛みが引かなかった。そんな時、韓国選手のうちの二人が、足の状態を心配するような素振りを見せてくれた。その後、「よく頑張ったな」というような顔で抱きしめてくれた。言葉は通じずとも、最大限の相手への労い、親愛、賞賛など、様々な感情が僕とその二人の間に生じていた。今でも、その二人への感謝は薄れることはない。スポーツには、言葉だけでは作れないつながりを生み出す力があるのだと感じた。スポーツの、真の目的はそこにあると、僕は考える。今回、このような貴重な機会を作ってくださった韓国の選手団の皆様、企画から運営まですべて携わってくれた日本の関係者の皆様に、心より感謝したい。そして、三位決定戦の後に心配してくれた二人、本当にありがとう。勝敗より大切なことというものを改めてよく理解するきっかけになった。また、日本の文化を紹介したり、共に食事をしたりすることで、短い時間でもお互いをよく理解することができた。スポーツが人々に与える力や、人と人との心の繋がり、そして、この交流事業の思い出をこれからも大切にしていきたい。貴重な経験をさせて頂いたことに、改めて感謝したい。

私立青山学院中等部２年　大歳　秀彦

一生の思い出になった日韓バドミントン交流

ぼくはバドミントンを小学校から始め、中学からは学校の部活で本格的にやっています。部活では、自分はかなり上手い方です。それで、今回の交流に参加しました。

日本のみんなとの顔合わせの時は、とても緊張しました。でも、みんなとても優しくしてくれました。そしてその日にシャトルを打った時は、みんな思った以上に上手くて驚きました。ぼくも全く通用しなかったわけではなかったけど、やっぱり結構悔しかったです。

それでその後、日本チームだけでの練習が何回かあって、日本の男子チームのみんなとは本当に気軽に話せるようになれて安心しました。そして、韓国チームがいよいよ日本に来ました。来る前は結構楽しみでした。韓国チームには、身長が高い人がいてびっくりしました。そして、同じグループの韓国人と英語で話しました。ぼくのペアは身長が高かったです。その後ペアと一緒に打ちました。英語で話した時から予想はしていたけど、やっぱりすごく上手かったです。結構、自分とも差があったので、悔しかったです。

その日の夕食は八芳園で食べました。その時は、スマホの翻訳機能で話しました。ご飯を食べ終わってからは他の韓国人とも話しました。日本の友達とも仲良くできたし、その夜は本当に楽しかったです。

その後の二日間は試合でした。韓国のペアとダブルスを組みました。正直役に立てるか不安でした。試合では、結局点数はまあまあ取れたけど、でもペアに任せっぱなしのようでした。その時も悔しかったです。僕はシングルスにも出ました。シングルスも、試合前から勝てるかすごく不安でした。それも全然点が取れなかった試合もあって、悔しかったです。試合が終わって、観戦していた日本の友達に、後半の方から点数が取れていると言われました。その時は、確かにそうだと思いました。いつもだとぼくはスマッシュやプッシュを打てているのに、多分緊張してうまく打てなかったのだと試合が終わってから気付かされました。

その次の日は文化交流で、みんなで色々な所に行きました。楽しかったです。その日の夜ご飯も八芳園でした。最後の夜だったので写真を撮ったりしました。そしてバスに戻る時は、正直戻りたくありませんでした。韓国人との時間は本当に楽しかったです。バスに乗ってみんなもそう言っていました。

今回の交流ではバドミントンの試合ももちろんですが、日本と韓国の人と仲良くできたのが本当に嬉しかったです。本当に別れたくありませんでした。日本の友達とはまた一緒にバドミントンをしたいし、韓国人ともまたいつか会いたいです。

目黒区立東山中学校２年　日下　優

はじめに、この日中韓三区青少年スポーツ大会の開催にあたって常にサポートして下さった目黒区役所の職員の方々、いつも優しく的確なアドバイスで私たちを導いてくださったコーチの方々、この交流会に関わったすべての方に感謝申し上げます。

私にとってこの交流会は、ひと夏の思い出でにとどまらず、一生忘れることのない思い出に、良い経験となりました。開会式で青木区長はおっしゃっていました。交流会を通して私たちに学んでほしいことが二つありました。一つはスポーツを通して他国の文化を理解すること。二つ目は多くの友をえること。私は四日間を通して、それらをしっかりと経験することができました。初日の顔合わせの時は私を含め目黒区の選手、中浪区の選手、誰もが緊張していました。でも、自分から積極的に話しかけたり、笑顔で接したりすることで、たとえ言語の違いがあっても簡単に仲良くなれることを嬉しく思いました。また、文化や考え方の違いなどにより、誤解が生じる場面もありましたが、それも自分がこれまで知らなかったことを知る、良いきっかけとなりました。バドミントン大会では、もちろん勝敗がありますが、私はこの交流会でそれ以上に価値のあるものを得ることができました。最初は難しかったコミュニケーションも回数を重ねていくうちに「楽しい」に変わっていきました。

私はこれから、もっと他国の人と話せるようになりたい夢を持つことができました。文化の違いに興味を持ち、自分の将来にも目を向けるきっかけとなりました。改めてこの交流会に参加して、国を超え友に出会い、初めての経験をさせて頂き、ＭＶＰという特別な賞まで頂くことができて本当に嬉しいです。ここで学んだことを、一つ一つこれからの日々の生活に生かしていきたいです。

目黒区立東山中学校２年　原　杏南

今回三区間交流事業に参加して、普段できない他国の人との試合や練習をすることができて、とても貴重な経験になりました。一緒にダブルスを組んで試合をしましたが、韓国の子たちとコミュニケーションをとることが一番難しかったです、会話は、翻訳アプリや簡単な韓国語や英語を使ってコミュニケーションをとりました。相手の言葉はあまり分からなかったですが、お互いに色々な方法を使って、どうにかコミュニケーションをとることができました。

また、夕食会では、バドミントン以外のことを話したり、もっと仲良くなれた気がします。日本の文化交流で、一緒におりがみ体験をして、韓国の子のほうが上手でびっくりしました。科学未来館では、一緒にゲームをしたりロボットダンスを一緒に踊ったりして楽しかったです。

今回は会話をする為に、翻訳アプリに頼ってしまいましたが、次このような機会があれば、自分で会話ができるように事前に勉強をして参加したいと思います。

目黒区立東山中学校２年　山本　瑞奈

私がこの三区間交流を通して心に残ったことは、様々な相手と戦うことで相手への興味が深まり、自然と会話が生まれたことです。また、試合中の話し合いでは英語でしか分かり合えず、その中でも認識の違いが重なり、うまく行かないことも多くありました。ですが、お互いに寄り添い分かり合うことでどこか距離が縮まったように感じました。

そして、私達が試合に励めたのは用意された環境のおかげであることをＯＢやスタッフさんのサポートを通して実感できました。特に、水を供給してくれる方のお腹が弱い人のための常温水の用意や、ペットボトルの区別がつかず困っているのを察して次の日から名前を書くためのペンを置く対応にはかなり救われました。そんな私達の些細な不満に応えてもらえたため、全体を通して楽しい交流会でした。

目黒区立目黒中央中学校２年　阿部　奏音

今回、日中韓交流事業に参加し、海外の生徒と過ごした四日間は、とても忘れられない良い思い出になりました。

初日の顔合わせ食事会では緊張もあり、「うまく話せるかな」という不安もありました。

二日目の交流試合では、国を超えてペアを組みました。言葉が完全に通じなくても「ナイス！」や「ファイティン！」など英語で声をかけたりハイタッチをしたり、合図を送りあうことで自然と心がつながるのを感じる事が出来ました。

三日目の結果発表では四チーム中三位でしたが、スポーツを通じて一つになれた達成感は大きな宝物です。

最終日には日本科学未来館を見学し、折り紙や茶道といった日本文化を一緒に体験しました。コート外でも翻訳アプリを使ったり、一緒に写真を撮ったりしながらコミュニケーションをとることで、一気に距離を縮めることができました。

この四日間で、伝えようとする気持ちがあれば、言葉の壁は越えられるのだと実感しました。この経験で得た「自分から積極的にコミュニケーションをとる姿勢」を大切にして、以前から興味があった留学が現実になれるよう今後の学校生活や部活に取り組んでいこうと思います。

目黒区立目黒中央中学校２年　齊木　あずさ

私は今回の交流事業で、‘交流’と‘バドミントン’の素晴らしさを学ぶことが出来ました。

応援の場面では、韓国語や日本語もたくさん飛び交っていましたが、日本と韓国のどちらからも「ナイス！」という同じ応援の言葉が聞こえる場面がありました。言葉が違うため、翻訳ができない場面では、お互いの意図が伝わりにくい場面もありました。その上で、ジェスチャーや英語を織り交ぜて話すなど工夫してコミニケーションしました。そのように、小さな共通点を見つけたり、楽しみながら工夫することを通して交流って楽しいなと心から思いました。

今回は英語で会話する場面も多くありました。

上手く英単語が出てこなくて、もどかしく感じる場面もありましたので、「学校の英語の授業をもっとちゃんと受けておけばよかった」と少し後悔しています。

また、お互いに少しずつ覚えた日本語や韓国語を使って交流することもありました。相手の挨拶を覚えているかいないとでは、距離の縮まり方が全然違うなと思いました。

相手の言語を使ってみようとすることが、一気に距離を縮めるきっかけになると分かりました。

最高の夏休みの思い出となりました。

目黒区立目黒中央中学校２年　森山　結良

私は英語が苦手で、韓国の人達とコミニュケーションが取れるかとても不安でした。しかも、日本のメンバーでも話したことの無い人や関わったことの無い人もいて、仲良くなれるかとても不安で、不安なことしかなかったです。

日本人だけでの練習が始まって、ずっと心はドキドキでした。でも練習の日を重ねてみんなと話す機会も増えて、不安だったのも少し軽くなった気がしました。

交流会本番が近づくにつれて緊張感もあったけれど、それよりもいい経験にしたい、楽しみたいという気持ちが不安よりも強く思っていました。

そしてドキドキの本番。事情により中国が来れなくて日韓でしたが、韓国の人はみんな優しい人でした。

日本語が通じないので、喋ることも、たくさん苦労しました。韓国の子とダブルスを組んだ時は言葉が通じないので、声をかけることすら難しく、まともなダブルスもできずに苦戦しました。だけど、だんだんペアの子とやっていく毎に絆も深まり、まともなダブルスをすることができました。

個人戦のダブルスでは、優勝することができました。嬉しかったです。

最終日では、韓国の色んな人達と話をしたり写真を撮ったり、１番濃い１日になりました。

最初は韓国の人達と上手に話せるか、仲良くなれるかとても不安でした。けれど、最終日では笑顔で楽しく終えることができました。

人生であまり日本人の人以外とたくさん話す機会がなかったので、とてもいい経験になりました。

目黒区立目黒南中学校２年　加藤　沙良

今回、三区間交流事業に参加しバドミントンを通して人とつながる事の楽しさを知りました。韓国から来た参加者と中央体育館でバドミントンの練習をし、試合をしました。

最初は言葉が通じず、どのように話しかければよいかも分からずとても緊張していました。ですが一緒にバドミントンを練習しているうちに少しずつ会話できるようになり自然に笑い合えるようになりました。

特に印象に残っているのは最終日にみんなでお台場に行った事です。一緒に食事をしたり遊んだりして練習中とは違った雰囲気で接する事ができ更にお互いを理解し合えたと思います。最初に感じていた距離感が縮まりとても楽しかったです。次はこのメンバーで韓国に行き一緒にバドミントンをしたり観光をしてみたいです。

今回参加した交流事業で言葉や文化が異なっていても、スポーツや笑顔で気持ちを伝え合える事ができるのを知りました。初めから言葉が通じないから無理と決めつけるのではなく勇気はいりますが自分から積極的に関わる事が大切だと実感できよい経験になりました。

四日間という短い期間でしたが普段できない貴重な経験ができ心に残る交流会になりました。ありがとうございました。

目黒区立目黒南中学校２年　永岩　怜

今回、私は日中韓の三区交流に参加しました。事前練習の時は「本番うまく試合できるかな？」「意思疎通できるかな？」ととても緊張していました。

当日も最初は緊張してうまくプレーをできていませんでしたが、交流していくうちに少しずつ緊張がなくなっていきました。日本人だけでなく、韓国人ともコミュニケーションを取って一緒に仲良く活動することができました。最初は言葉の壁を感じることがありました。自分が伝えたいことがうまくつたわらなかったり、相手の言っている事がわからなかったりしました。それでも、ジェスチャーや英語を使ったりしてコミュニケーションを取ることができました。そのおかげで四日間の最終日では、別れるのが嫌と思うくらい仲良くなることができました。

今回の三区間交流でスポーツは、言葉の壁や国の違いは関係なくプレーできるということを学べました。ここで学んだことをこれからの学校生活に活かしていきたいです。